

鈴木ひとみ市政報告



ごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。
今年は災害のない、良い年でありますようにと心から願います。けれども、また大きな台風が来るかもしれない、地震が起きるかもしれないと考える方も多くいます。今回の災害を検証し、いかに被害を減らすか、人々の生命と財産を守るかを考えていきたいと思ひます。

令和元年12月 第3回 市議会定例会報告

館山市防災本部が地域とつながる仕組み作り 地域の連携を生かせば、より迅速で適切な災害対応ができるはず

台風15号に襲われた9月9日の朝、多くの地区の役員、消防団の皆さんは、地域を見回り、生活道路の復旧やがれきの片付けなどに努めていました。一方、各地区公民館には前夜から地区防災本部として避難所が開設され、市職員が配備されていましたが、9日朝には避難所を閉鎖し、通常業務に戻りました。この時点で地区役員や消防団と連携していれば、もっと早く被害状況が把握できたはずで



9月9日布良の朝

ブルーシートをはじめ、多くの支援物資が各地区公民館で配布されました。公民館には長蛇の列が出来たにもかかわらず、配布を知らなかった、公民館まで取りに行けなかったという市民も多くいました。広報車で知らせながら、各町内会、区の集会所で配布したら、もっと必要とする人に必要な物を届けることができたのではないのでしょうか。自助、共助、公助といわれますが、この3つが連携する仕組みを作っておくべきだと考えます。



各学校の教室を避難所に 空調設備の整った教室が、より快適な避難所になる

台風19号の際、避難者数が予想を超え避難所が次々と増設される事態となりました。危険な思いをして移動した市民や市職員がいました。これまで避難所とされていた地区公民館の多くは老朽化していて適さないことも判明しました。

空調設備のない体育館内は温度が上がり、もし8月9日なら熱中症の危険を伴う状態でした。空調設備のある学校教室を開放して避難者数に応じた部屋数を利用していくべきと考えます。小さな子や高齢者のいる家庭で避難をためらった例がありましたが、教室を小さい子向け、高齢者向けと分ければ気兼ねなく過ごせたでしょう。

土砂崩れ危険箇所の安全対策 土砂崩れを防ぐ対策は私有地も必要

大雨による土砂崩れがあちこちで起きました。まだ崩れる危険のある場所もたくさんありますが、私有地の場合は地主が対策工事をしなければなりません。私有地に対しても補助金を出す自治体もあり、館山市でも検討すべきです。



土砂崩れの現場